

琉球大学学術リポジトリ

ミモシンによる日本ウズラの動脈硬化抑制

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 稲福, 征志, 屋, 宏典, 戸田, 隆義, 岩崎, 公典 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016688

講演演題；ミモシンによる日本ウズラの動脈硬化抑制

氏名；○稲福征志、屋宏典*、戸田隆義**、岩崎公典*

所属；琉大農・生資、琉大遺実験セ*、琉大医・臨床検査医**

[目的]

我々は粥状硬化病変の発生進展には内膜細胞の増生が関与し、粥状硬化病変が良性腫瘍に類似した治療可能な進行性病変であることを示唆してきた。本実験では、細胞増殖抑制作用を持つミモシンを日本ウズラに投与し、動脈硬化病変の抑制が認められるかどうかを検討した。

[方法]

日本ウズラを0 mg、5 mg、10 mg ミモシン/日の計3群 (n=6) に分け、高コレステロール食 (5% コーンオイル + 4% コレステロール) で14週間飼育した。飼育4週、8週、14週目に採血を行い、血清中の脂質レベルを測定した。屠殺後は血清、肝臓及び大動脈を採取し、血清と肝臓の脂質レベル並びに大動脈の動脈硬化指数を測定した。

再現性を確認するために、日本ウズラを0 mg、3 mg、5 mg、7 mg ミモシン/日の計4群 (n=8) に分け同様に実験を行った。

[結果]

血清及び肝臓のコレステロールレベルとリン脂質レベルにはミモシン投与の影響は認められなかった。又、血清 GOT 及び GPT レベルにも群間で有意な差は認められなかった。

ミモシン投与群の動脈硬化指数は有意に減少し、ミモシン投与による動脈硬化抑制が認められた。